

関西学院同窓会神奈川支部 第13回ミニ講演会 報告

日時：2019年3月2日（土）10時～11時30分

場所：杉田地区センター

参加者：講演会40名（1958～1983卒34名 一般6名）

講師：杉本啓子氏（1975・文学部仏文科卒）

テーマ：「額装の魅力～あなたの大切なものが額の中で生かされます」

内容：

9時30分から受付開始で定刻の10分前には、ほぼ参加者が揃いました。神奈川支部会員以外にも講師の友人参加もあり、期待に満ちた雰囲気の中で開始となりました。

司会の多比良恵子幹事から、女子会で講師宅を訪ねた時の話を皮切りに講師の紹介があり、次に高木支部長から「額装とは何かと思う方も多いと思いますが、この講演で分かります」と挨拶があり、いよいよ講演がスタートいたしました。

額装の様な素敵なタイトルがプロジェクターから映しだされて講師が登場。以下、講演内容を講師より配布されたレジメに沿ってご報告させていただきます。

1. 関学に入学して

関学の文学部を受験したのは 美学科があり幼い時から色彩やデザインやインテリアに興味があったので、そんな勉強ができると思って入学した事。ところが初めて受けた美学の講義は思っていたものとは違い哲学のようなもので思わず“Oh my God!”。3年生で美学科に進む事をやめ、デザイングループでクラブ活動をし、ダブルスクールでインテリアの専門学校に通い、スキーやテニスのサークルに参加するも大学での勉学に熱中できなかつたことは卒業後も反省し続けていた事。「そんな私が今なぜここに立っているのか、これから話します」と話が始まりました。

2. 「好きなことそれが私のできること」

この言葉を座右の銘にしている、友人の書家に書いていただいたと、その文字と額装を映像で紹介



3. 額装のビフォーアフター

額装で飾られるものがどれくらい変わるかをカレンダーや複製画、立体物のサンプルとしてペーパーウェイトなど、身近なものでその変化を見せられて、会場からは歓声があがりました。

4. 額装に至るまでの道

①父との思い出&貰った絵

父親が美術好きで多くの絵画を収集しており、結婚を機に何点か貰ったが、すべて重厚な額で当時は絵の額とはこういうものなのだなあと思っていたとの事。写真を実際に見せてもらって一同納得。



②南アフリカでの経験

ご主人の赴任での海外駐在。そこで欧米人の家では絵や写真が色々な額にいれられて飾られていた室内に感動。



司会；多比良幹事



シャガールの絵を引き立たせている額装に魅了されて南アフリカで購入したリトグラフが写しだされ、額装の素晴らしさに気づき額装をしたいという思いになった作品。



③20年の宝石店勤務で学んだ事

帰国後、知人の宝石店でデザインもしながら務めるが、その時に受け継がれた宝石がリフォームでさらに価値が上がることに気づく。

④書家とのコラボレーション

親しい書家に新築記念に依頼した書に自分で額装したところ、書にはない額装を施したのでコラボしようということになり、額装の仕事が始まった。



⑤私のメモリアルフレーム

講師にとっての思い出の品、お母さんからの絵手紙や帯ハンカチなどの額装の写真を紹介。

5.印象に残ったご注文

講師は、それぞれそれぞれの額装をする時に依頼主からきちんと話を聞いて構想をたてられます。印象に残った作品をそのエピソードとともに紹介します。

その1

「祖母が孫の誕生の時に作った30年前の布団カバーのアップリケを使って新婚家庭にかけられるような額を作ってもらえないか」と依頼され、一部のアップリケを切り取って小さな額にしました。祖母の思い出が額装になっていました。



その2

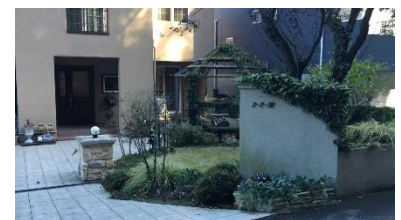
[代々伝わっていた大きな金庫を壊すにあたり、その金具をなんとか出来ないか]と依頼があった。重厚なその金具は、その家の歴史そのものようでした。息子お二人にその作品を送られたそうです。家の歴史が繋がっていく良いお話しでした。



他にも色々ありましたが紙面の都合で残念ながら割愛させていただきます。

6.ようこそフレーム 2222 へ

鎌倉の自宅の1階部分をギャラリーとして利用。「皆さまのお越しをお待ちしています」と動画で紹介。「2222」は講師の家の住所で、看板代わりになっています。



7.プロとのコラボレーション

大切な品の他にプロの写真家や篆刻家などから依頼があり、その作品も披露されました。



8.同じコンセプトで「古いものが生まれ変わりました」

大切にしているものを生まれ変わらせたい思いから、嫁入り道具の鏡台や古いカップボードをリフォーム、母親の着物をベットカバーや洋服にリメイクもしているとの事。また着物の生地

素晴らしい素材とデザインに魅了されており、当日は黒絵羽織をリメイクしたパンツスーツ姿でした。

9.今思う母校関学

神奈川支部の同窓会で女子会に参加してから、あれよあれよという間にこの講演の講師を引き受ける次第となりました。ゴルフやゆる登山のサークルなどを通じて縁が広がり、関学愛が生まれて、今はこの大学を卒業したことと神奈川支部に所属することをとても嬉しく思っています、と締めくくられました。



KGグッズ

同窓生&友人の皆さんのメモリアルフレーム紹介

大切なものを額装依頼された同窓生や友人がわざわざ作品を持参され、それぞれ紹介いただきました。依頼者と作品を記載させていただきます。

① 高木紀世子支部長(1971・文)

お太鼓結びの帯。帯としては、役目を全うしたので額装にしてみようと思われたそうです。お香の会などで飾り、より多くの人に見て欲しいと依頼。「出来上がりの作品の写真で送られてきたとき思わず、「手直しできますか」とお願いした。実物を見たら感激。写真では素晴らしさは伝わらないと強調されました。



② 南岡寛子さん(1981・文)

姑が亡くなった後で、彼女が作ったレース編みを見つけて、お好きな紫色の色を基調に立体額で作製してありました。嫁としての愛も感じられる柔らかな作品。



③ 松永公美子さん(講師友人)

愛犬に似た犬の絵葉書(星を見つめている)。ペットが家族以上の存在となっている方にとっては、必見の作品でした。愛犬とどの様に暮らしてきたかを、丁寧に聞かれて作成されたので依頼者は大満足との事。



④ 世戸さつきさん(1976・文)

講師の自称「広報担当」。南アフリカで購入したランチョンマットの額装。長年眠っていたこの品をなんとかならないかと依頼して作品化。あまりに素晴らしい出来で、持っていた全てを依頼。マットの裏にあった現地の人の名前をさりげなく表にデザインしてあり、人との繋がりを感じる作品。



※宇良関応援の会の二次会で、世戸さんから高木支部長と水野がこの額装の話聞き、同じ鎌倉在住の水野が次の日に講師を訪ねたのが、今回の講演になるきっかけとなりました。

⑤ 金澤記美恵さん(1975・文)

巻物の七夕の絵手紙。習っていた先生から送られた手紙を七夕の時に飾れるようにして欲しいと依頼され額装した作品。



⑥ 戸倉涼子さん(1975・文)

ミュシャのカレンダーを大事にしている、それを依頼。ステンドグラス風になっているのでそれを生かした作品。窓辺に飾るときと部屋の壁に飾るときとで表情が変わるアイデアが素晴らしい作品でした。



講師から『皆さまの大切なものは、何でしょう？ぜひお聞かせください』との問いかけで、講演は終了となりました。

質問タイムでお二人からご発言がありました。

多根伸彦さん(1967・商)

今回は、女性が約半数の参加でとても華やかな事、ゴルフ会での講師のエピソードなどに加え、皆が知りたいであろう代金を質問されました。今回紹介の作品は全て1万円台(10,000～19,999円)で、大きさや内容によって変わるとのこと。



小野博也さん(1966・文 美学科)

「もし杉本さんが美学を専攻していたら額装についても学べた」と美学科先輩としてのコメント。「しかし、もしその道に進んでいたら、講演会でアシストくださる様な素敵なご主人と巡り会えなかったかもしれないので結果的に良かったかも」とフォローがあり、暖かい雰囲気になりました。



懇親会(ランチ):12:00~14:00 パレドバルブ(徒歩5分)

参加37名 貸し切り

司会の高沢光代幹事(1983・文)が「会社では、もう定年間近なのに、ここでは、一番若い事がとても嬉しい!」との挨拶で場が和み、梶山修弘さん(1965・経)の乾杯で食事がスタートいたしました。

出席者全員の近況報告は、講師のご主人や友人など関学以外の方も含めて、順番に自己紹介いただき、とても和やかで楽しい懇親会になりました。

講師のご主人は、「とても暖かい同窓会の雰囲気の中、妻を額装家として改めて認識した」とほほえましい自己紹介でした。



司会の高沢幹事

佐藤事務局長は高等部の同窓会に駆けつけたため、懇親会は欠席。恒例の最後のエールはどうか、そのとき、**笈田桂三さん(1967・商)**が初めてとは思えない素晴らしいエールをしてくださり、皆で「空の翼」を斉唱して閉会となりました。



【副支部長 水野裕子・記】

《事務局 後記》

- ・女性の参加が 19 名 (47.5%)。女子会以外では支部行事やサークル行事で過去最高の参加率。
- ・写真を提供いただきました梶山さん (1965・経) にこの場を借りてお礼申し上げます。